＜株式会社エフエム東京　第４４７回放送番組審議会＞

１．開催年月日：平成 30 年 4 月 3 日（火）

２．開催場所　：エフエム東京　本社 10 階　大会議室

３．委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名　社内 0 名）

◇出席委員（5 名）
横 森 美 奈 子　委員長　　渡　辺　貞　夫　委員
内　館　牧　子　委員　　秋　　元　　康　委員
ロバート キャンベル　委員

◇欠席委員（1 名）
川 上 未 映 子　委員

◇社側出席者（11 名）
冨木田　代表取締役会長
千　代　代表取締役社長
平　　専務取締役
吉　田　常務取締役
村　上　取締役営業局長
西　川　常勤監査役
森　田　執行役員編成制作局長
兼　株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延　江　営業局エグゼクティブ・プランナー
宮　野　編成制作局編成部長
若　杉　編成制作局制作部長
増　山　編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当　森田放送番組審議会事務局長】

４．議題：　番組試聴　（約 38 分）
エフエム徳島・TOKYO FM 共同制作　鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画
ドキュメンタリードラマ『歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡』
2018 年 3 月 18 日（日）　13:00～13:55　JFN38 局ネット

≪議事内容≫
議題 1:最近の活動について

■新たな IP サイマルサービス「WIZ RADIO」のリリースについて

TOKYO FM とジャパンエフエムネットワークでは、新たなラジオプラットフォーム（IP サイマルサービス）「WIZ RADIO」を、本日 4 月 3 日よりスタートいたしました。全国 39 の FM 局（JFN38 局+LOVE FM/福岡）の番組がエリアフリー（無料）で聴取できるほか、レコチョクとの連携により、ラジオでオンエアされた楽曲の試聴・購入がワンストップで可能になります。更に、ポッドキャストを始め、「WIZ RADIO」でしか聴くことのできないスペシャルな音声コンテンツを配信する等、新しいラジオ体験をリスナーに提供していきます。今後は、「WIZ RADIO」アプリ上でリクエストやメッセージが送れる 2way コミュニケーション機能なども加わり、さらなるサービス拡充を進めてまいります。

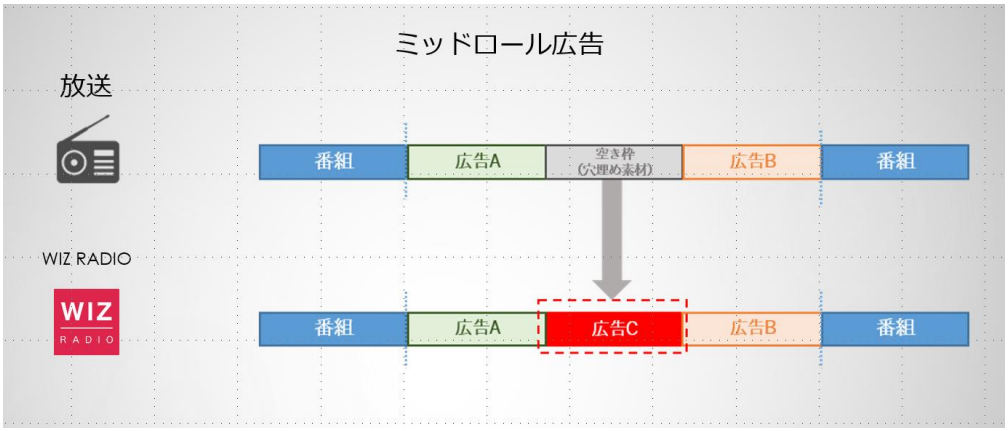
また、「WIZ RADIO」上では、CM ゾーンの空き枠（自局の宣伝・番宣などに用いられる枠）を活用し、聴取者の属性に合わせた音声ターゲティング広告の配信を実現しています（※図）。リスナーの嗜好性に合わせた広告情報が優先的に配信され、広告主にとっては、よりターゲット層にアプローチしやすく、より効果的な音声広告の出稿が可能となります。

▲ログイン画面

▲全国 39 局が一覧から選択可能

▲聴取画面

【イメージ図】



■2018 年 2 月度 聴取率調査結果について

2018 年 2 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。（調査対象期間：2018 年 2 月 26 日～3 月 4 日）

当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）の全日平均においては、前回 12 月度に続き在京局で 2 期連続の同率首位。また 20 代男女区分でも同率首位、30 代男女区分では単独首位を獲得しました。

今回の傾向としまして、F1 層のスコアが回復して平日の主要ワイド 8 番組で首位を獲得するなど女性層に強いステーションブランドは堅持できておりますが、とりわけ 40 代区分では今回スコアが下降し競合局との差分が大きく開く結果となっております。また、平日・土日ともに朝帯のスコア低迷も依然回復に至っておらず、4 月改編における明確な課題を残す結果となりました。その一方で、中高生ターゲットの「SCHOOL OF LOCK!」は一年がかりでスコアを大きく回復し、今回は 10 代区分で同時間帯の他局を大きく離しての単独トップを獲得しました。

当社の強みである若者リスナーをしっかり開拓、維持していきながら、改めて大人の鑑賞に堪え得る放送の在り方、聴感上の音空間演出に至るまで細部の総点検を行い、4 月以降さらなる聴取率向上を目指してまいります。

■2018 年 4 月番組改編について

デジタルネイティブの台頭によるスマホ時代、より一層、デジタルとラジオの関係が深まっていく中、一方で、若者の SNS 離れなど、デジタル疲れする現象も見られはじめました。TOKYO FM の編成制作局では、そうした時代の潮流を鑑み、アナログ的な価値観＝TOKYO FM の強みである、絆づくりや思いやりを大切にするアース＆ヒューマンコンシャスアクション、多種多様な共感コミュニティを形成するコンテンツ強化を図りながら、新 IP サービス「WIZ RADIO」を最大武器化させ、デジタル＋アナログ両方の良さを活かした、新たなラジオ体験を提案していきます。そして 4 月の改編では、コンセプトワードとして“Life WIZ RADIO”を掲げ、「WIZ RADIO」で、TOKYO FM をはじめとするラジオステーションをより身近な存在にしてもらい、リスナーの Life＝「生活」、「人生」、「命」にいつも寄り添っている、そんなオンリーワンのステーション像を強固にしていきます。

4 月改編主な新番組・リニューアル

●『クロノス WIZ』　＜新番組＞
月曜～金曜　午前 5:00～5:55　＊東京ローカル
出演：ケリーアン（月曜～水曜担当）　／　綿谷エリナ（木曜・金曜担当）

編成課題であった朝ワイド番組『クロノス』の早朝立ち上がりの低迷をテコ入れするため、早朝 5 時台に生放送枠を新設しプレ番組『クロノス WIZ』を新たに編成いたします。ターゲットリスナーのライフスタイルが、働き方改革や健康志向などの影響により、‘早起き化’へシフトしていることに合わせ、早起きリスナー、朝活リスナーに必要なニュース＆天気予報をコンパクトに紹介し、毎日の目覚めに相応しい選曲をお届けすると共に、「WIZ RADIO」のプレイリスト機能と連動させていきます。パーソナリティには日米ハーフのモデル兼 DJ【ケリーアン】と、8 か国語を操る国際派【綿谷エリナ】を曜日別で起用。二人はそれぞれ、6 時からの『クロノス』のアシスタントも続けて担当します。
東京オリンピック開催の 2020 年に向け、国際化が進む東京の朝を彩るべく、複数の言語に堪能で、グローバル感性に秀でた 2 名を起用することで、6 時以降の『クロノス』の強化につなげてまいります。

左：【ケリーアン】
24 歳。日米のハーフ、神奈川県出身。モデルでもあり、英・日・中のトリリンガル。FM 映えするキュートな声の持ち主。両親はデザイナーで小学生からモデル活動を始める。雑誌「CUTiE」「Fine」のレギュラーモデルとして活躍。TOKYO GIRLS COLLECTION 等多数のファッションショーに出演。
右：【綿谷エリナ（わたやえりな）】
31 歳。ドイツで生まれ育ち、3年前に日本へ。20 か国以上の海外渡航歴を持ち、TOEIC985 点で複数語学堪能、翻訳、通訳もこなせる国際派パーソナリティ。ドイツ国立ベルリン自由大学・歴史文化学部卒
言語：日本語、英語、ドイツ語、ラテン語、フランス語、韓国語、中国語、スペイン語

●『SCHOOL OF LOCK!』
＜アーティスト LOCKS!・GIRLS LOCKS!出演者変更＞　＊JFN38 局ネット
中高生フラッグシップ番組である同番組では、新規リスナー獲得、スマホリスナー獲得に向けて「アーティスト LOCKS!」「GIRLS LOCKS!」出演者を一部変更します。

10 代に圧倒的人気を誇るアニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の声優ユニット【Aqours（アクア）】と、今年の高校サッカーの応援マネージャーとしても脚光を浴びた新人女優の【高橋ひかる】を起用。

また、昨年末の紅白歌合戦にも出場した 10 代ロックバンド【SHISHAMO（シシャモ）】も仲間入りします。常に 10 代に求心力が高いニューフェイスを起用することで、新規 10 代リスナー獲得、新たな共感コミュニティの形成を目指してまいります。

▲Aqours

▲高橋ひかる

▲SHISHAMO

●『ENEOS presents DREAMS COME TRUE 中村正人の ENERGY for ALL』
日曜　13:00～13:55　＊JFN38 局ネット
出演：中村正人（DREAMS COME TRUE）

DREAMS COME TRUE 中村正人をパーソナリティに迎え、2020 年の東京オリンピックへ向けての発信拠点として、夢に向かっていくアスリート、そして日本全国の頑張る全ての人に向けて、音楽のパワーで元気とエールを届けるプログラム。中村正人が古今東西の音楽から毎週ワンテーマを設けて、日曜 13 時という最高のドライブシーンを演出します。さらに「TOKYO 2020」へのエール企画として、東京五輪出場を目指すアスリートたちを迎えてのスペシャル対談も構想中です。

当社は、J-POP レジェンドともいうべき松任谷由実、山下達郎、桑田佳祐らのパーソナリティ番組を継続して編成しておりますが、彼らに続く世代の国民的アーティストの番組を編成する J-POP ネクストレジェンド構想を掲げています。当番組はその一環で、TOKYO FM&JFN の No.1 音楽ステーションブランドを更に強化していきます。

◂中村正人(DREAMS COME TRUE)

■民放ラジオ 101 局特別番組の企画制作について

日本民間放送連盟ラジオ委員会のもとで組織される「広報戦略部会」では、毎年ラジオメディアの価値向上、若者層ノンリスナー層へのラジオ訴求に向けての様々な施策を講じています。

民放ラジオ 101 局の制作幹事を昨年に引き続き当社が担当し、昨年度の放送で大反響だった民放ラジオ 101 局特別番組（山下達郎・星野源のラジオ放談）の第 2 弾として、『福山雅治・菅田将暉の WE LOVE RADIO!～ラジオだから話せることがある。ラジオだから出来ることがある。』を企画制作し、全国 101 局で 3 月 21 日（水・祝）に放送しました。

（※TOKYO FM は 19 時～20 時放送、その他各局では同日 19 時～24 時の間で放送。）

当社人気レギュラー番組『福のラジオ』出演者の福山雅治と、本年度日本アカデミー賞で主演男優賞を受賞するなど、今最も勢いのある人気俳優の菅田将暉（ニッポン放送『オールナイトニッポン』出演者）という、共に役者、ミュージシャン、ラジオパーソナリティとしての顔をもつ共通項のある人気者同士がこの特別番組でラジオ初共演。二人によるラジオ愛溢れるトークから、福山雅治と菅田将暉によるこの番組だけの弾き語りスペシャルセッションも披露しました。

放送当日までの PR 施策も幅広く実施。101 局共通の WEB サイト制作から、二人の収録風景を番宣ムービーにした SNS 広告の展開、二人の撮り下ろしポスターも制作。若者ノンリスナー層の興味喚起を図り、ラジオメディアの価値を広く訴えました。

▲福山雅治・菅田将暉

▲PR ポスター

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○WIZ RADIO は radiko とは差別化されているのか？

■radiko は現在、AM 局・FM 局ともに加盟局が配信費用を負担して送信している。聴取可能エリアは放送エリアに限定されている。東京にいると、東京エリアで放送が聴取可能が局のみが聴けて、それ以外の地域は課金をすると聴けるという仕組みになっている。WIZ RADIO については、加盟局であれば無料でどのエリアでも聴けるという違いがある。また、radiko については同時再送信のコンテンツのみだが、WIZ RADIO は今後、独自のコンテンツを増やしていく予定があり、楽しみ方の違いで差別化を図っていく。

○2 月度の聴取率調査の結果において、40 代が苦戦したとの説明があったが、原因などはどう捉えているのか。

■さまざまな理由があり一概に断定はできないが、TOKYO FM のコアターゲットとして若者・M1F1 層を挙げ、力を入れた編成を行っているため、20 代 30 代のシェアは首位を獲得している。それと同時に、コンテンツの聴感上の雰囲気が若者に寄っていて、そのことが、40 代 50 代リスナーを遠ざけている結果に繋がっているのは否めない。

○40 代の人たちはどの局を聴いているのか。

■40 代は J-WAVE のシェアが高い。J-WAVE が開局した時の若者たちが成長して今 40 代を迎えていることも相まって、シェアが高いと考えられる。

○WIZ RADIO で局の番組宣伝が広告に差し替わるということだが、とても面白い取り組みだと思う。普段パソコンなどでインターネットを閲覧している際に、自分に合いそうなものを推測して表示されるバナー広告のようなものを想像すればよいのだろうか。

■それと同じ仕組みである。

○親近感がわきそうだ。

○「ノンリスナー対策」という取り組みは定期的に行っているのか？

■今まで全くラジオに接してこなかった層に対して、民放ラジオ全局で取り組みを行っている。過去には、学校に出向いて企画を行ったりもした。昨年から、このような強い訴求力のある掛け合わせの対談で放送を行っている。この企画による番組を通して初めてラジオを聴いたという声もみられた。

【番組名】
エフエム徳島・TOKYO FM 共同制作　鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画
ドキュメンタリードラマ『歓喜の歌が響く街～第九の里 徳島県鳴門市の奇跡』

【放送日時】　2018 年 3 月 18 日(日)　13:00～13:55　JFN38 局ネット

【番組概要】
　本日ご試聴いただくのは、3 月 18 日(日)に放送したエフエム徳島・TOKYO FM 共同制作　鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画 ドキュメンタリードラマ『歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡』のダイジェストです。
この番組は、1918 年にアジアで初めて、ベートーヴェンの交響曲第 9 番(通称第九)が徳島県坂東町(現在の鳴門市)で演奏されてから、ちょうど 100 年を迎える今年、第九の持つ「平和への希求」を改めて考える意図で企画しました。ドラマとドキュメンタリー形式を組み合わせ、現代を生きる物語上の主人公・理人(リヒト：ドイツ語で光という意味)と、坂東町に実在した高橋春江さんという女性にまつわるインタビュー素材を中心に制作・オンエアしました。
1917 年、第一次世界大戦当時、中国青島の戦いで日本に敗れたドイツ兵のうち、約 1,000 人が徳島県坂東町(現在の鳴門市)の板東俘虜収容所に収容されました。この収容所では捕虜に対して人道的な扱いが心がけられ、地元住民との交流も積極的に行われました。特に音楽活動に関しては、1920 年に捕虜が解放されるまでの約 3 年間に 100 回以上のコンサートが開かれ、1918 年 6 月 1 日には満足な楽器もなく女性の歌い手もいない中、ベートーヴェンの交響曲第 9 番がアジアで初めて全曲演奏されました。
主人公・理人は、鳴門市に住む小学生が当たり前のようにドイツ語で第九を唄うことに驚き、先生から、第九は「時代によって二つに隔てられていたものをもう一度結び合わせる」という意味であることを学びます。第九が作られた 200 年前、アジアで初めて演奏された 100 年前、そして現代にまで続く、二つに隔てられる悲劇。番組では「第九アジア初年 100 周年」という記念の年に、平和への願いを改めて考えました。

■当日オンエア楽曲
名前が知りたい　／　原田知世

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○素晴らしい番組。WIZ RADIO もそうだが、これからのラジオの在り方としてコンテンツを作っていくという意味では、このような丁寧な仕事はとても大切だと思う。取材、構成など、制作に時間をかけているのが分かる、汗を書いた分、いい作品に仕上がっている。もったいなかったのは、ドキュメンタリーだけの方が感動したのでは、と感じてしまったこと。ドラマの部分がどうしても絵空事のように聴こえてしまった。新しい形で過去と現在を結びつけるには単純なドキュメンタリーではなく、ドラマと掛け合わせることがチャレンジだったのだろうが、難しいと思った。冒頭のドラマのコメディタッチな部分で気持ちが遠ざかってしまった人がいるのではないか。最後の、ドキュメンタリーでのご子息の声はとても強く、そういう部分は他に代えがたいものがある。ドキュメンタリーが深い分、ドラマの部分があまりに軽く浅く聴こえてしまった。素材をダイジェスト版に編集しているので、カットした部分を聴けばまた違ってくるのかも知れない。

○このようにしっかりと作り上げるコンテンツは、これからのラジオに必要だと思う。もうひとつは、「～しながら」聴けるコンテンツ。仕事をしながら、勉強しながら、というラジオ以外にはない強みが、「ながら」。ここを頑張って行って欲しい。

○昔、合唱団に所属していたことがあり、第九をうたっていた経験がある。第九は人間を楽器のように扱う楽曲で、音程の高いところから一気に低いところへ落とすというリズムの急な変化が、特に開放感を感じさせてくれる。日常生活を全て忘れて喜びを感じる楽曲。この時代の人たちもきっと同じだったのだろう。とてもいい話だった。

○ドキュメンタリーとドラマを重ねる試みは良いが、話を広げ過ぎているように感じた。55 分の中でものすごく話を広げてしまい、聴きにくかった。ラジオドラマの演技力はすぐに分かってしまう。また、説明ゼリフが多かったのも気になった。この説明ゼリフはドキュメンタリーのナレーションで語られればよかった。ナレーションと、説明ゼリフと、主人公のモノローグで、あまりに語りが多くなってしまった。

○子どもが第九をドイツ語で歌うことがとても興味深い。この部分をもっと掘り下げて聴きたかった。

○素晴らしい話だった。今、ちょうど EU（ヨーロッパ連合体）がヨーロピアナ(Europeana)という文化遺産をWEBサイト上にデジタルでアーカイブする取り組みを行っているが､その中の一番の看板グループ Europeana 1914-1918 では、第一次世界大戦について、勝者も敗者も両側の遺産を民間人から収集している。この事実はヨーロッパの人が知らないと思うので、多言語化してぜひ伝えてほしいと思う。

○ドキュメンタリーで話を聴いた部分がとても良かったが、逆にその分、タイトルコールから空港に降り立った親子の会話が妙にドラマ仕立てで、温度差がすごいなと感じた。それは、歴史を知らない若い人たちを惹きつけようとする意図なのかもしれないが、その温度差が逆方向に聴こえてしまった。

○周囲に大人を配置することで、主人公の理人の子供性がことさら強調されていた。そのことで、キャラクター的に、作られた少年に感じられた。子供同士のやりとりなどがあれば違ったのかもしれない。

○この番組を聴いて、鳴門市にこのような事実があったことを初めて知った。大変興味深く聴いた。

○タイトルの「鳴門第九アジア初演 100 周年記念企画『歓喜の歌が響く街～第九の里 徳島県鳴門市の奇跡』」が妙に情緒的に感じられて番組内容と結びつかない違和感を感じた。

○これだけの圧倒的な事実をドラマ化することは難しいと思う。私はラジオドラマに馴染みのある世代なので興味深く聴いたが、昔のドラマはもっと自然に耳に入って来たイメージがあるが、この番組は特に冒頭の部分の演技力が過剰で、おもしろおかしく始まっていて、気になった。ラジオドラマに馴染みのない世代にも聴かせたいという意図があるのかも知れないが。説得力もあるし、内容は素晴らしいが、演出の仕方が課題だと思う。

○みなさんが指摘したドラマ仕立ての部分は､鳴門市の観光 PR に気を遣ってしまったのかなと思った。

■それはあったかもしれない。
構成の部分は一考の余地があったように思う。

■全てドキュメンタリーで構成するには 100 年前のことを語れる人が少なく、ドキュメンタリーの部分をドラマ形式で埋めていく意図もあった。観光 PR の部分も少し気を遣って過剰にしてしまったかもしれない。今後の課題としたい。

5.放送番組審議会の内容について
審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。
① 放送:番組「JOGLIS」
4 月 28 日（土）7:00～7:20 放送
② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 http://www.tfm.co.jp/

7.その他
次回の放送番組審議会を、5 月 8 日（火）に開催することを決めた。